

夏休み、子どもの居場所を守ろう！ オンラインセミナー事後アンケートまとめ

実施日：2021年7月19日（月） アンケート回答者：121名

（1）お住いの地域

北海道	4人
関東	48人（東京22人・千葉6人・埼玉5人・群馬3人・茨城4人・神奈川8人）
東北	11人（福島2人・山形1人・宮城6人・岩手1人・青森1人）
近畿	9人（奈良2人・兵庫3人・大阪1人・京都2人・滋賀1人）
中国	8人（広島3人・岡山2人・島根2人・鳥取1人）
中部	17人（富山1人・福井2人・山梨1人・長野6人・愛知7人）
四国	10人（高知1人・愛媛1人・香川5人・徳島3人）
九州・沖縄	12人（鹿児島1人・佐賀2人・福岡1人・山口2人・熊本4人・沖縄2人）

（2）参加者の属性

こども食堂関係者	64人
都道府県自治体	10人
事業者	18人
社会福祉協議会	9人
子どもの居場所関係者	5人
NPO法人関係者	4人
市町村自治体	2人
学生	2人
大学関係者	1人

(3-1) こども食堂運営者など実践者向け
今年の夏休みの子どもの居場所づくりに関するアクション予定

夏休みに子どもの居場所に関するアクションを行う(こども食堂や学習支援、イベント等)	76.1%
確定していないが、準備中	10.2%
予定はない	13.6%

(3-2) こども食堂運営者など実践者向け
子どもの居場所づくりに関するアクション詳細

こども食堂の開催	35名 (45.5%)
食材・お弁当配布	46名 (59.7%)
学習支援	37名 (48.1%)
体験型イベント	30名 (39%)
その他	24名 (31.2%)

その他の回答抜粋)リサイクル衣類、生理用品、生活用品、文具の配布、居場所サミットの実施など

(4-1) 政府・自治体関係者向け
子どもの居場所関連の支援施策の検討状況

子どもの居場所に関する支援施策を行う	11名 (55%)
確定していないが、準備中	6名 (30%)
予定はなかったが、本セミナーを受けて検討してみたい	3名 (3%)

(4-2) 政府・自治体関係者向け
子どもの居場所関連の支援施策の詳細

子どもの居場所づくりに関する相談窓口の設置	7名 (29.2%)
子どもの居場所開所に向けた働きかけ (感染防止対策ガイドラインの策定等を含む)	7名 (29.2%)
補助金の提供	7名 (29.2%)
会場の提供	7名 (29.2%)
広報支援	10名 (41.7%)
食材・物資支援	12名 (50%)

イベント・シンポジウムの実施	7名 (29.2%)
管内の子どもの居場所マップや名簿の作成	5名 (20.8%)
コーディネーターの委嘱	2名 (8.3%)
アドバイザーの派遣	0名
その他	1名 (4.2%)

(4-3) 4-1で「検討したい」と答えた方の関心施策

子どもの居場所づくりに関する相談窓口の設置	2名 (18.2%)
子どもの居場所開所に向けた働きかけ (感染防止対策ガイドラインの策定等を含む)	4名 (36.4%)
補助金の提供	5名 (45.5%)
会場の提供	2名 (18.2%)
広報支援	5名 (45.5%)
食材・物資支援	5名 (45.5%)
イベント・シンポジウムの実施	3名 (27.3%)
管内の子どもの居場所マップや名簿の作成	2名 (18.2%)
コーディネーターの委嘱	0名
アドバイザーの派遣	0名
その他	1名 (9.1%)

その他の回答抜粋) 貧困家庭見守りの為の弁当の配布先への弁当保管箱の取り組み方

(5) ご感想

とても学び多いセミナーでした。zoomを通して全国の子ども食堂、関係機関とつながれた気になることが出来ました。この学びを子ども食堂の活動にも反映して行きたいなと考えています。このような機会を頂きありがとうございました！
コロナ禍で更に居場所の必要性が再認識されたことを感じました。 私たちの団体もとまっていた食堂をテイクアウトの形で8月から再開します。全国色々な場所で皆さん頑張っているので、私たちにできる形の居場所作りをしていきたいと思います。
子ども食堂に対する国や自治体の支援体制について知れたこと、医学的立場から感染対策を聞けたこと、実際アイデアをこらしてコロナ禍でも活動されている素晴らしい実例を聞けたこと、大変勉強になりました。フードバンクとしても地域の子ども食堂の皆様と協力して子ども達を守っていきたいと思います。
子ども食堂に対する国や自治体の支援体制について知れたこと、医学的立場から感染対策を聞けたこと、実際アイデアをこらしてコロナ禍でも活動されている素晴らしい実例を聞けたこと、大変勉強になりました。フードバンクとしても地域の子ども食堂の皆様と協力して子ども達を守っていきたいと思います。
今年度より食材配布を始めました。近隣で老舗の子ども食堂がまだまだお弁当配布な中、一緒に食事をする

ことは出来ないかなと思っていたので、お医者様に説明していただいて、納得がいきました。1時間半の時間の中で盛りだくさんの内容を詰め込んで頂き、参考になるアイデアが沢山ありました。良い時間をありがとうございました。

子どものために子ども食堂を守ること、そのためにはコロナ感染拡大防止をしっかりと行いながらすることが大切であると感じました。コロナ感染があるからと言って子どもの居場所はなくしてはならないと感じました。子どもスタンプカードの活動やゼロ円マーケットなど楽しく参加できる活動でありとてもいいと思いました。普段は聞くことができない方々から話を聞くことができ、とても貴重な体験をありがとうございました。

コロナ禍における国の対応や感染対策について理解しやすかったです。
同じ子ども食堂をされている方のお話を伺えることも とてもモチベーション維持に繋がります。子ども食堂の開催を維持するためにも お力をお借りできることはすべて挑戦します。このようなセミナーを開催してくださってありがとうございました。夏休みも週1から2回開催予定であります。子ども達のやりたいことアンケートに書いてあったこと、全て実行したいと思います。

ワクチン接種が具体的に始まる前と、現在ではこども食堂の運営について少し迷う要因に変化が出てきましたが、今日のセミナーを受けて、スタッフへもきちんと説明が出来る自信になりました。ありがとうございます。また、国の補助金についての情報もありがとうございました。早速自治体に問い合わせます。
いつもむすびえ様からの情報に支えられています。ありがとうございました。

いろいろな立場の方からのお話を聞いてとても参考になりました。特に、お医者さんから改めて子どもは感染源では無い、大人が注意する必要がある、という言葉を聞いて勇気が出ました。厚生労働省の方からの情報ありがとうございました。自分でも調べてみるのですが、なかなか探し出すのが難しいので…。役場の人も忙しく、全ての情報を共有できているわけでは無いので、すぐに使えそうな制度を紹介していただけて助かりました。

大変勉強になりました。私事で恐縮ですが6年前に福祉事務所勤務の傍らプライベートで仲間と食堂を立ち上げ運営、保健所へ異動後コロナ対策最前線に身を投じ子どもの感染例を間近に見てきたことから、悩みに悩んでまいりました。現在食堂は「お弁当配布」に切替えています。居場所は目下の課題です。
食堂では藤岡先生の言葉「子どもを守るために」を改めて運営仲間と共有し自己点検シートを活用させていただきます。豊田のシートもわかりやすくまとまり有難く共有させていただきます。
業務で新たに異動した行政センターで地域の方と居場所事業を展開しています。こちらの対策にも自己点検シート等活用させていただきたいと思います。ありがとうございました。

長期休みが始まるタイミングで、とても有意義な時間でした。藤岡先生のお話では、感染予防は引き続き大切ですが、必要以上に怖がる必要はないとわかり安心しました。子どもの居場所を継続するうえで必要な正しい知識を得ることができ、勉強になりました。事例発表では、東灘こどもカフェのお話が参考になりました。子どもとつながり続ける工夫や、子どもが主体的に活動できる工夫、地域と子どもをつなぐ工夫など、社協職員として本当に勉強になりました。コロナ禍でも、できることはたくさんあるのだと思いました。事例発表は様々なヒントをいただけるので嬉しいです。このようなセミナーを企画していただきありがとうございました。

昨夜も充実のオンラインセミナーをありがとうございました。
坂本少子化対策大臣や内閣府の方の挨拶や時間があり、子ども食堂として始まったものが、現在は子どもだけでなくさまざまな事情がある方の「居場所」として、また孤独・孤立感から始まる自殺への予防効果など、とても幅広く、大切な存在としての子ども食堂を、政府の方々も認識してくださっていることが伝わりました。しかし、この問題はこの1年を重点的にやったからといって、当然なくなるものではないので、政府の理解と支援を、これからもぜひ継続してほしいと思いました。
また、県知事の方々の取組も全く知りませんでしたが、山口県は全国19県(違っていたらすみません。)の中にに入っていて、うれしく思いました。
ふじおか小児科の藤岡先生のお話も、実際に携わっておられるだけあって、説得力がありました。「清拭による消毒は不要である」とのお話は、もっと広めてほしいと思いました。
藤岡先生が、母子家庭であったというご経験は、同じような立場にある方々を勇気づけられると思います。全国のひとり親家庭の方々へ、ご自分の経験談をぜひ発信していただきたいとも思いました。
また神戸市等の2団体の発表では、どちらも経験を積まれた年代の男性で、神戸市ではそのような方々がほぼ担われている(当市は女性が多いので)というところに驚きを感じました。参加したくなり、しかも回りにもいい循環が起こるスタンプのアイデア、素敵です。
チャットでも熱心な質問等があり、それを拝見することもためになりました。本当にあつという間の1時間半でした。

(6)ご意見・ご要望

現在コロナ感染が中心だが、本来的には食品衛生との課題がある。飲食店が主体となる子ども食堂で、保健所との関係が良好な都道府県があれば、どのような対応を取っているか知りたい。

コロナ禍で工夫しているグループの実践事例をもっと知りたいです。

団体で苦労している事(ボランティアスタッフを募ることや、そもそも活動資金面で苦労している事など、他団体様の事例などをグループセッションなどで交流出来たり…)のようなイベントがあれば、参加させていただきたいです。

子どもや保護者で、最も居場所を必要としている対象者へのアウトリーチが民間団体だと難しい面があります。広く広報していますし、小学校に月1回は出向いての活動をしていますが、本当に必要としている家庭に届いているか気になっています。学校、行政や児童民生委員、社協との連携などしきみづくりのうまくいっている地域のお取組みを知りたいと思います。

オンラインの普及で全国の皆さんと繋がりやすい環境になりました。ぜひ全国の実践団体が交流できるプラットフォーム(単発のイベント)が叶えばいいなと思っています。

国の施策等も分かり参考になりました。先進的な取組をされている自治体や団体の活動を取り上げていただければ参考になります。

子どもの権利に関する学びを深めるものがあったらと思います。子どもたちの意見を聞く場もあれば。学校や自治体の相談窓口をいくら増やしても、子どもたちは「相談」することをためらうと言います。民間の居場所でも、関係性が初めて初めて本当のことが話せるとも思います。

子どもアドボカシーの研修等も多くなってくればいいと思います。

ネットワークの資源・人材の作り方などを勉強する機会があれば嬉しいです。